

このまちの100年

「大分」

大分は古墳時代の碩田(おおきた)が地名の由来とされます。奈良時代に豊後国の国府が置かれ、鎌倉～戦国時代は大友氏が治めました。江戸時代になると府内城の城下町が形成され、明治期に県庁所在地となり現在に至ります。



大正期

明治44年に開業した日豊本線の大分駅。駅前には人力車が見える



昭和10年頃

春日神社は平安時代初期に奈良から勧請したと伝わる県内有数の古社。この社殿は昭和20年の大分空襲で焼失した



昭和10年頃

春日神社に隣接する春日公園。元は境内の一部だった



昭和10年頃

大分と別府を結ぶ、別府大分電鉄(のちの大分交通)別大線が走る大分市街中心部。左側の少し先が竹町通の入口



昭和10年頃

竹町通は約120年もの歴史がある商店街。写真は電車通り(現在の中央通り)からの撮影。現在のガレリア竹町



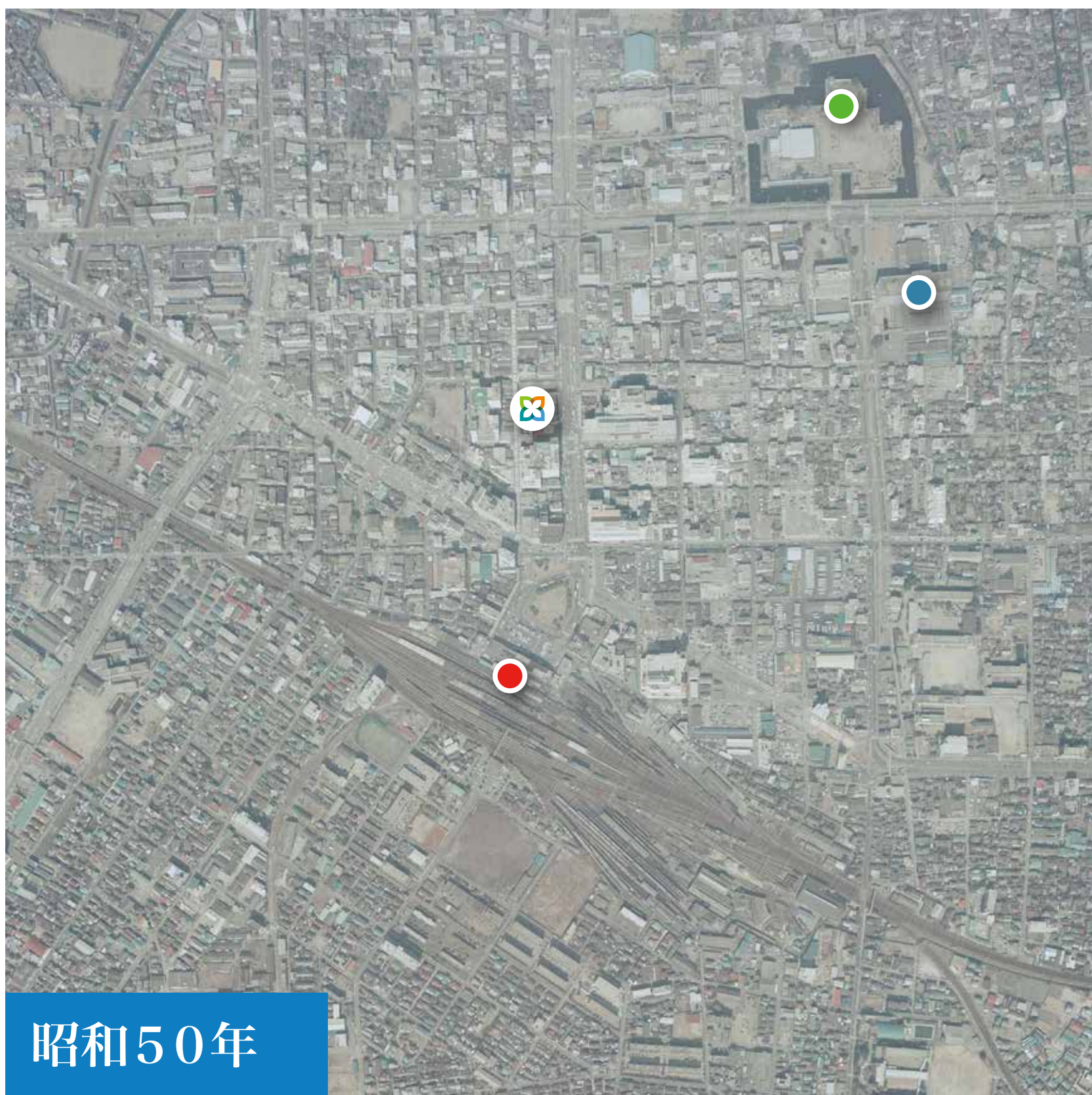
昭和後期

大分駅構内。昭和62年、駅名標にある高城駅との間に牧駅が開業した。正面の集合住宅のあたりは平成期に大分駅南地区として区画整理などが行われた

上空からみた大分エリア



昭和23年



昭和50年



平成25年

📍 : 現在地
● : 大分県庁 ● : 府内城址 ● : 大分駅

出典: 国土地理院「地図・空中写真閲覧サービス」(一部加工)

編集: 株式会社コロマチ